

令和2年度

「阿南市と大正大学の連携協力に関する協定」に基づく
地方創生・地域の活性化等に関する研究

成果報告書

令和3年3月

大正大学

目 次

1. はじめに 1P
2. 今年度の研究方針 2P
3. 調査研究事業（関係人口） 5P ～ 17P
(研修会、参考資料) 18P ～ 24P
4. 高校生ミライ新聞 25P ～ 28P
5. 地域創生学部実習報告 29P ～ 34P
6. まとめ 35P

1. はじめに

これまでの5年間、「阿南市と大正大学の連携協力に関する協定」に基づく地方創生・地域の活性化等に関する研究事業は、各分野の専門家で構成する「あなん未来会議」で人口減少社会における持続可能なまちづくりの超長期的な提言をまとめ、さらに「高校生ミライ会議」「特別講演会」などの人材育成にも取り組んで来ました。

その結果、「野球寺」や「シームレス民泊」などの実践例やAIなど次世代産業革命を見据えた新しい教育の提言が生まれ、さらに若者が「ふるさと」と「自分」の未来を考える貴重な機会を提供し、高校・地域・企業・行政の連携による人材育成プログラムの機運も高まってきました。

これらの一定の成果を踏まえ、新たな方向性として、これまで未来へのアイデアを提言した「あなん未来会議」については5年を節目に一旦休止し、地域創生にかかる喫緊のテーマに的を絞った課題解決型の調査研究を行うこととなりました。そこで、まず、第2期「まち・ひと・しごと創生戦略」の6つの新たな視点のなかで、都市から地方への人の流れを作る「関係人口」に着目し、阿南市のSUPタウンプロジェクト等の取組を踏まえた「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」を実施することといたしました。また、高校生ミライ会議は継続して人材育成を推進いたします。

令和2年に入って突如発生した新型コロナウイルスの脅威は社会に大きな打撃を与え、人々の生活や働き方などライフスタイルに大きな変革をもたらし、今もなお収束の出口が見えない中で、都市と地方の役割も大きく変貌しようとしています。

このような状況下となりましたが、本事業においては感染対策に万全を期しながら「関係人口」の第一段階の調査研究を実施し、高校生ミライ会議はミライ新聞に形を変えて、現役高校生たちの活動を伝えることができました。

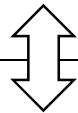
本報告書では、その調査研究活動の報告と考察を記述していきます。

2. 今年度の研究方針

これまでの調査研究の歩みを振り返り、新たなテーマと事業計画を設定しました。

1. 「包括連携協定の柱」から読む今後の可能性と「関係人口」のテーマ設定

	これまで	これから
1. 地方創生に係る政策 提言	未来会議を開催して提言 をまとめる	地域構想研究所研究者の知見を生かした提言 高校・地域・企業との連携（浦崎）/観光 DMO・ 起業者育成（村崎）/生物多様性・SDGs（古田） /ふるさと回帰・企業の地方進出（塚崎）/ <u>関係人 口とマーケティング戦略（中島）</u> /淡路島丸ごと ラボ“新しいワーケーション”（山中）
2. 地域課題解決への調 査研究	未来会議での提言を考察 して報告	テーマを絞った調査研究に（例） <u>関係交流人口の拡大、首都圏との交流・プロモ ーション</u> 、地域公共交通、新野・加茂谷・椿など 周辺地域活性化（ふるさと未来課）/若者と企業 のマッチング（商工・教委）/中心市街地活性化 （商工・まちづくり）/ふるさと納税（ふるさと 未来・商工・農林）
3. 人材育成	高校生ミライ会議 委員による特別講演会 （阿南高専での AI など）	<u>高校生ミライ会議（継続）</u> 特別講演会→企業経営者の小中高出前授業 地元企業インターン促進
4. 広域連携の促進		関係交流人口に向けた連携 （四国の右下、AMA、東京、大阪）
5. 新たな産業創出		ローカルベンチャー促進事業 新商品の開発 若者の起業促進
6. 協議による事項	未来会議の企画運営	<u>関係人口を核としたシティプロモーション</u>



2. 受託研究の企画書

研究の柱	「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」
経過・情勢	<p>これまで、阿南市との受託研究として 2015 から 2019 まで 5 年間にわたって実施された「あなん未来会議」では各分野の専門家から超長期的な視点による様々な提言があり、「野球寺」や「シームレス民泊」などの実践例も生まれた。さらに、人口減少時代にサステナブルな阿南を創るためには人材育成が最重要課題であるとの意見集約があり、将来の U ターンを促す「地域への愛着」を醸成するため 3 年目から始めた高校生ミライ会議は若者が「ふるさと」と「自分」の未来を考える貴重な機会となり、高校・地域・企業・行政の連携による人材育成プログラムの機運も高まってきた。</p> <p>一方で人口減少・東京一極集中への歯止めがかからない状況の中、世界的な新型コロナウイルス感染が人々の働き方やライフスタイルに大きな変革をもたらし、都市から地方への新たな動きが予見されている。</p> <p>ここ数年、阿南市では「あなん〔地域好循環〕総合戦略」の一つとして、定住・移住そして「関係人口」施策に力を注いできた。また、大正大学でも「関係人口」が地域にもたらす効果を地域創生の重要なファクターと捉えて各地で専門的な調査研究を行っており、国の第 2 期「地方創生」で「関係人口の拡大」が視点の柱に盛り込まれたことから、各自治体の取り組みが大きく注目されている。</p>
趣意	<p>「関係人口」について、阿南市では「野球のまち」「SUP タウン」「移住交流センター」「地域おこし協力隊」など地域資源を生かした施策でその創出拡大に鋭意取り組んできたが、今一度、PDCA サイクルの観点から阿南市の「関係人口」の現状を把握する必要があると考える。</p> <p>そのため、阿南市と大正大学との受託研究事業として、これまでの「関係人口」に関する資料、アンケートや聞き取り調査など学術的なデータやモデルを基に、動態や傾向、ニーズなどを検証・分析するものである。そうすることで、阿南市にどういった人や企業を呼び込むべきなのか、若者の U ターンを活性化するには何をすべきなのか・・・が可視化され、明確なシティプロモーション戦略が定まり、阿南市の新たな未来へのステージが見えてくる。そしてまた高校生が関係人口についてどう考え、どう関わっていくのかも未来への重要な指針となる。</p> <p>以上のことから、「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」と「高校生ミライ会議」を受託研究の柱として、企画運営を行いたい。</p>

キャッチフレーズ	「若者の意見」と「関係人口の見える化」で創り出す阿南のミライ戦略
事業対象	<ul style="list-style-type: none"> ・若者（小中高、高専生、勤労者）と市内企業 ・関係人口（移住希望者、阿南ファン、既に移住した者など広義に捉える） ・関係人口を迎える市内団体、企業、個人
事業方針	<p>市所有及び公表データ、アンケート調査、関係人口対象者などの聞き取りを基に分析及びモデル検証を行い、「高校生ミライ会議」での若者の意見、大正大学生の地域実習での実践活動と連動しながら、3年後をめどに「関係人口を核としたシティプロモーション戦略」の策定を目指す。</p> <p>☆参考【阿南市交流促進事業の「見える化」プロジェクト】</p> <p>（年次計画）</p> <p>1年目（令和2年度）→現状分析、指標化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿南市来訪者の実態把握、これまでの効果測定、関係人口の実態調査など ・高校生ミライ会議での若者の意見集約（オンライン会議で計画） <p>2年目（令和3年度）→ターゲットング、必要な活動を明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏での阿南市の認知度やニーズ調査（既存イベントの活用） ・関係人口受け入れのモデル活動調査（大正大学実習と連携） ・高校生ミライ会議での若者の意見集約 <p>3年目（令和3年度）→戦略の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係人口を核としたシティプロモーション戦略の策定 ・戦略の先行的なモデル事業の実践 ・高校生ミライ会議での若者の意見集約
運営	<p>阿南市企画部ふるさと未来課</p> <p>大正大学地域構想研究所（主任研究員：中島ゆき）</p> <p>大正大学地域構想研究所阿南支局（研究員：鈴江省吾）</p>

3. 調査研究事業

関係人口を核としたシティプロモーションの検証

阿南市では「野球のまち」「SUP タウン」「移住交流センター」「地域おこし協力隊」など地域資源を生かした施策を打ち出し、移住交流人口の創出・拡大に鋭意取り組んできましたが、国において「関係人口」という新しい視点が示された中で、今一度 PDCA サイクルの観点から阿南市の現状を把握する必要があります。

そのため、本年度は本学地域構想研究所の中島主任研究員が中心となって、本市の移住交流支援センターに寄せられた相談やアンケートのデータを集積するとともに、移住者・支援団体のヒアリング、SUP タウンプロジェクトの県外参加者へのアンケート調査を実施し、阿南市の関係人口の動態や傾向、ニーズなどの検証・分析に着手しました。そうすることで、阿南市にどういった人や企業を呼び込むべきなのか、若者のUターンを活性化するには何をすべきなのか・・・が「みえる化」され、明確なシティプロモーション戦略が定まり、阿南市の新たな未来へのステージが見えてくると考えました。

次項からその調査内容と分析について報告いたします。（報告書は別途冊子あり）

調査の状況



関係人口を核としたシティプロモーションの検証プロジェクト

— STEP (1) 関係人口の見える化 (現状分析) —

進捗報告 R2年度のデータ整理からみえた方向性について

報告書 資料版

大正大学地域構想研究所 阿南支局

関係人口の課題

◆ここ数年、阿南市では「あなん(地域好循環)総合戦略」の一つとして、定住・移住そして「関係人口」施策に力を注いできた。

大正大学でも「関係人口」が地域にもたらす効果を地域創生の重要なファクターと捉えて、各地で専門的な調査研究を行っており、国の第2期「地方創生」で「関係人口の拡大」が視点の柱に盛り込まれたことから、各自治体の取り組みが大きく注目されている。

◆阿南市では「野球のまち」「SUPタウン」「移住交流センター」「地域おこし協力隊」など、地域資源を活かした施策で「関係人口」創出拡大に鋭意取り組んできたが、今一度、継続的な改善の礎にするべく、PDCAサイクルの観点をもって阿南市の「関係人口」の現状を把握する必要があると考え。阿南市と大正大学との受託研究事業として、これまでの「関係人口」に関する資料、アンケートや聞き取り調査など学術的なデータやモデルを基に、動態や傾向、ニーズなどを検証・分析することで、阿南市にどういった人や企業を呼び込むべきなのか、若者のUターンを活性化するには何をすべきなのか…が可視化され、明確なシティプロモーション戦略が定まり、阿南市の新たな未来へのステージが見えてくる。そしてまた高校生が関係人口についてどう考え、どう関わっていくのかも未来への重要な指針となる。

以上のことから、「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」と「高校生ミライ会議」を受託研究の柱として、「若者の意見」と「関係人口の見える化」で創り出す阿南のミライ戦略」の企画運営を実施していくものである。

受託研究の
背景

事業概要

- ◆阿南市市所有及び公表データ、アンケート調査、関係人口対象者などの聞き取りを基に分析及びモデル検証を行い、「高校生ミライ会議」での若者の意見、大正大学生の地域実習での実践活動と連動しながら、3年後をめどに「関係人口」を核としたシティプロモーション戦略」の策定を目指す。

※本年度は新型コロナウイルスの影響により、当初予定の通りには調査は進み難い部分もあったが、それを鑑みての3年計画を進める。

【年次計画】

1年目（令和2年度）→現状分析、指標化

- ・阿南市来訪者の実態把握、これまでの効果測定、関係人口の実態調査など ⇒ **STEP（1）関係人口の見える化**
- ・高校生ミライ会議での若者の意見集約（オンライン会議で計画）

2年目（令和3年度）→ターゲティング、必要な活動を明確化

- ・首都圏での阿南市の認知度やニーズ調査（既存イベントの活用）
- ・関係人口受け入れのモデル活動調査（大正大学実習と連携）
- ・高校生ミライ会議での若者の意見集約

3年目（令和3年度）→戦略の策定

- ・関係人口を核としたシティプロモーション戦略の策定
- ・戦略の先行的なモデル事業の実践
- ・高校生ミライ会議での若者の意見集約

年次計画

3

STEP（1）関係人口の見える化（現状分析）

【目的】

「関係人口を核としたシティプロモーションの検証プロジェクト」は、阿南市にどういった人や企業を呼び込むべきなのか、若者のUターンを活性化するには何をすべきなのか・・・が可視化された明確なシティプロモーション戦略が定まり、阿南市の新たな未来へのステージの方向性を明確にしていくことを目的とする。そのために、初年度はSTEP（1）関係人口の見える化（現状分析）を行った。具体的に実施したことは2点あり、それぞれの目的は以下になる。

①移住相談窓口データの整備

現在 **移住意向が顕在化している層**として、実際に「移住相談窓口」にいられている方々の相談データの整備を行った。現状では、ご相談者の希望や依頼内容に対応するための対応履歴として保管しているものである。しかしながら、将来的にこの貴重なデータを **ニーズ分析とサービス提供のための顧客データという位置づけで活用することが必要**ではないだろうか。この視点に立ち、本年度は同データが顧客データという位置づけで利活用可能なものか、また **利活用する際の課題などを洗い出すことを目的**として整備を行った。

②SUP大会参加者アンケート実施

今後、可視化された明確なシティプロモーション戦略を定めるためには、地域外の人々の観光や移住、また関係人口などに対するニーズ調査と分析が必要不可欠である。次年度以降、幅広い層を対象にした調査を実施し、その上で同戦略を見極めるため、本年度はアンケート調査のトライアルという位置づけで、関係人口のモデル事業の一つである「SUP大会」に参加者を対象としたアンケートを実施し、**今後の調査における課題検討**を行った。

③戦略策定に必要なデータ整備（提案）

以上の現状分析から、可視化された明確なシティプロモーション戦略に必要なデータ整備の具体的な手法と可能性を提案し、実現可能性を検討するたたき台として活用してもらうことを目的に提示する。

目的と概要

参考資料



- ✓ 関係人口研修__創出と深化政策
- ✓ ★移住相談受付データ__210126時点 マスター
- ✓ SUP大会参加者アンケートデータ

4

① 移住相談窓口データの整備

【現状】

- ✓ 丁寧な対応とヒアリングにより、データ保管状況が非常に優れている
- ✓ 移住促進に必要な情報がとれる状態になっている
- ✓ **有数のデータ保有量と質であると考えられる**



- ✓ 移住促進に必要な指標の再設計（経年で変化してきているため）
- ✓ 相談者にも担当者にも負担の少ない「**顧客データベース**」構築が可能



- ✓ 移住意向の高い「関係人口」の属性分析が可能
- ✓ 人口政策の成果の数値と内容の両方を経年で追える
- ✓ 継続した「関係人口」との関係をつなぐ役割ができる

関係人口 深化政策のためのベース資料となる

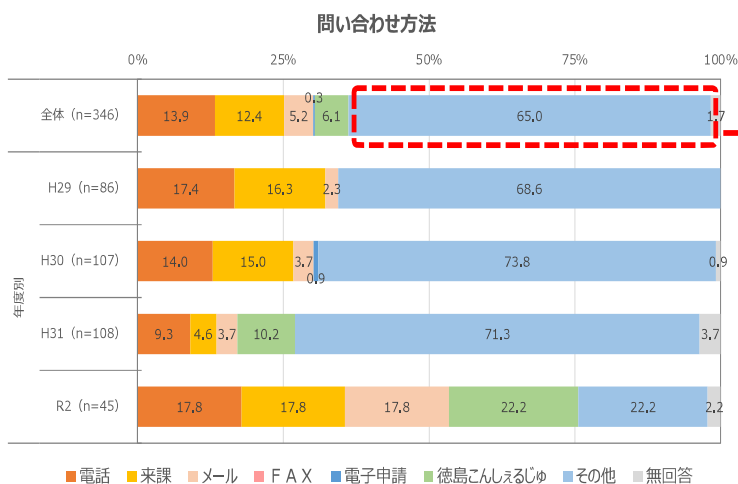
移住相談窓口保有データ

参考：★移住相談受付データ_210126時点 マスター



- 現在のデータ保管 全346件
 - 平成29年 (86件)
 - 平成30年 (107件)
 - 平成31年 (108件)
 - 令和2年 (45件) ※9月まで
- 保有指標
 - 問合せ方法
 - 性別
 - 年齢
 - 職業
 - 状態 (相談の状態)
 - 移住関心場所
 - 移住検討地域
 - 移住検討地域の移住支援団体からの情報提供
 - 興味のある情報
 - 移住の際の家族形態
 - 子どもの人数
 - 移住先での希望就労形態
 - 移住先での希望物件
 - 希望する広さ (坪)
 - 提供資料名

◆ 移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



その他詳細は次ページ

保有データ 問合せの種類 1/2

ここ数年、「電話」と「来課」の2種類が多い傾向が続いている。対して、R2年は「メール」の増加傾向が特徴的である。「その他」の詳細が記述形式で保管されていたため、詳細分析可能。

【課題】

- 時代の変化、出稿媒体の変化により、問合せ形式が変化。そこに対応する必要あり。
- 上記により、データの性質が異なっているため、最終的な窓口と顧客のファーストコンタクトを区別した方が良い
- その他を自由記述にしているため、表現統一性が課題

↓ データ整備でわかること

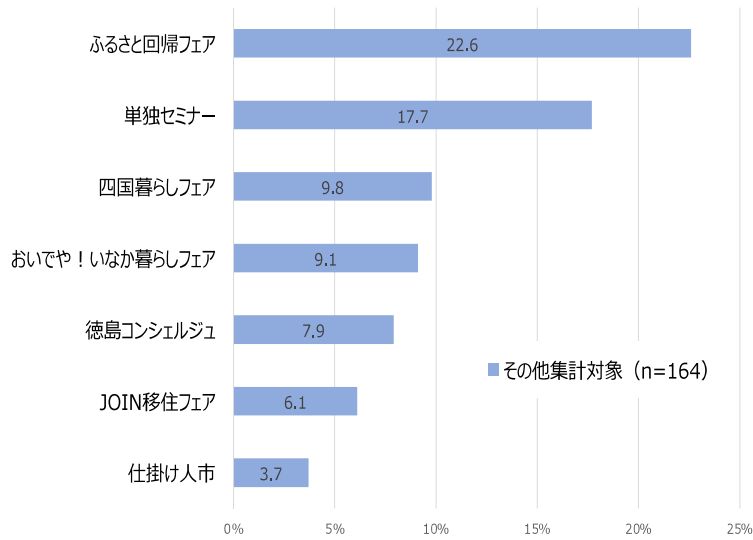
- ✓ 効果の出ているフェア、媒体
- ✓ 媒体別の移住希望者の属性

◆ 移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



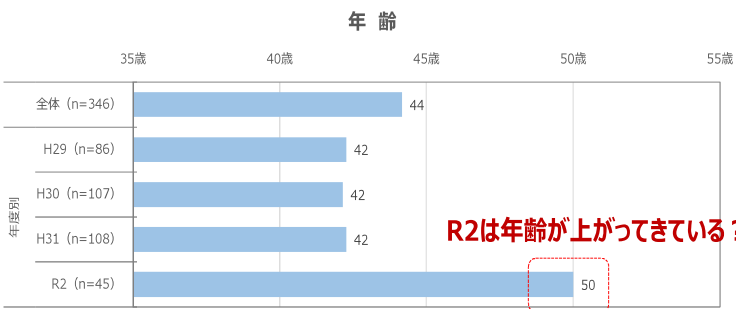
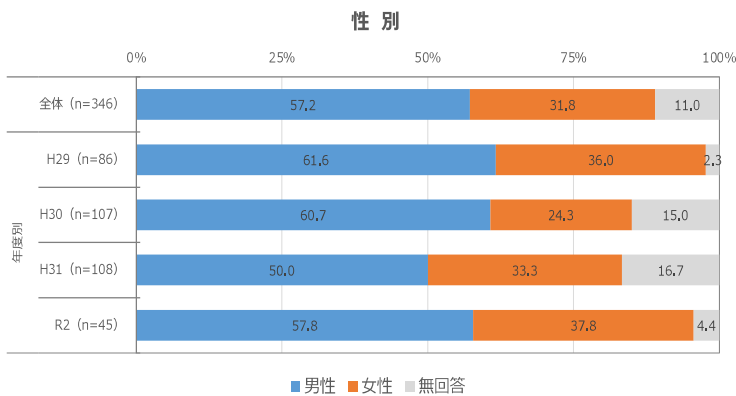
その他
詳細

「その他」の詳細に、
相談者のコンタクト媒体が列記されており
データ整備することで媒体効果を測ることが可能



保有データ
問合せの種類
2/2

◆ 移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



保有データ
基本属性
1/2

年齢、性別、家族形態、
この基本属性を明確にデータで取得することで、阿南市へ移住を検討している属性のペルソナがわかる。

【課題】

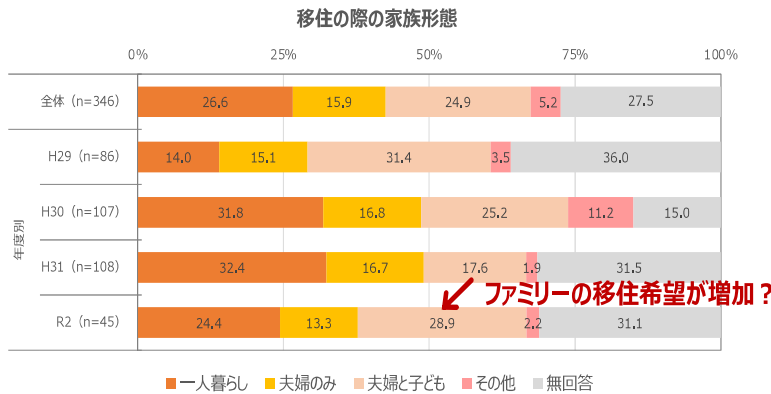
- 無回答の割合が高いこと → 担当者による相談者の負担軽減、プライバシー尊重意向によるものと考えられ、データの収集方法を検討する必要がある。
- 他の設問のクロス集計の基本となる項目のため、なるべくデータが100%揃うのが望ましい



データ整備でわかること

- ✓ 属性別のコンタクトポイント
- ✓ 属性別の生活ニーズ
- ✓ 属性別に効果的な媒体

◆ 移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



ペルソナ分析
阿南市移住希望者の像

ビジネス（転職）系



ファミリー層



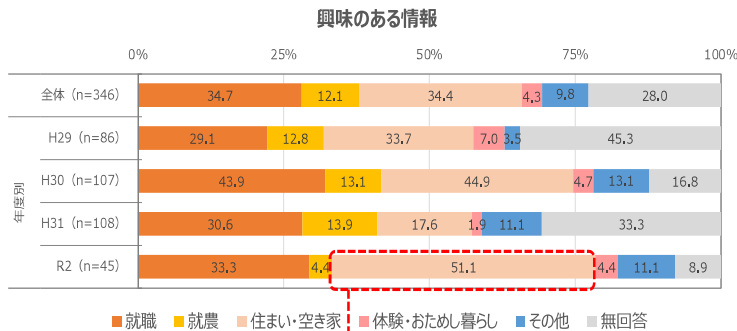
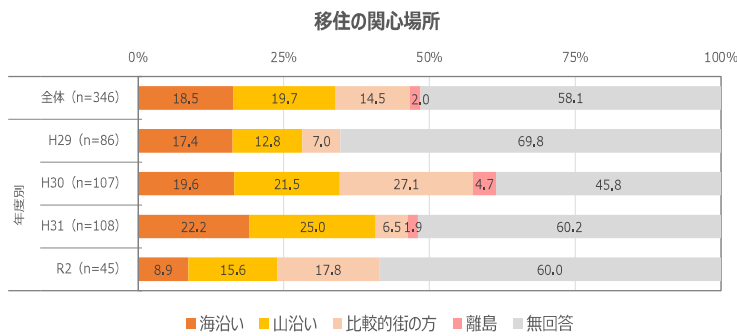
年配ご夫婦層



データの統一性を測ることで
阿南市移住希望者の属性傾向とその数値的
割合がわかる
⇒経年変化も追える

保有データ
基本属性
2/2

◆ 移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



R2は就農の割合が減っている？
Or 「住まい・空き家」が高いことで
移住意思確定後の相談が増加？

保有データ
ニーズ
1/2

移住の関心場所、興味のある情報など、ニーズ把握に有益な情報がとれている。尚且つ、月別の経緯を把握できているため、同月の過去年比較が可能。

【課題】

- 担当者による精緻な自由記述欄が、大変有益な情報の山となっている。この箇所のテキスト分析の労力をいかに削減できるか。
- 担当者の属人的判断にゆだねるため、項目を精緻に検討し、統一性の確保が課題

データ整備でわかること

- ✓ 移住環境整備のニーズ把握
- ✓ 政策での重点ポイントの見極め

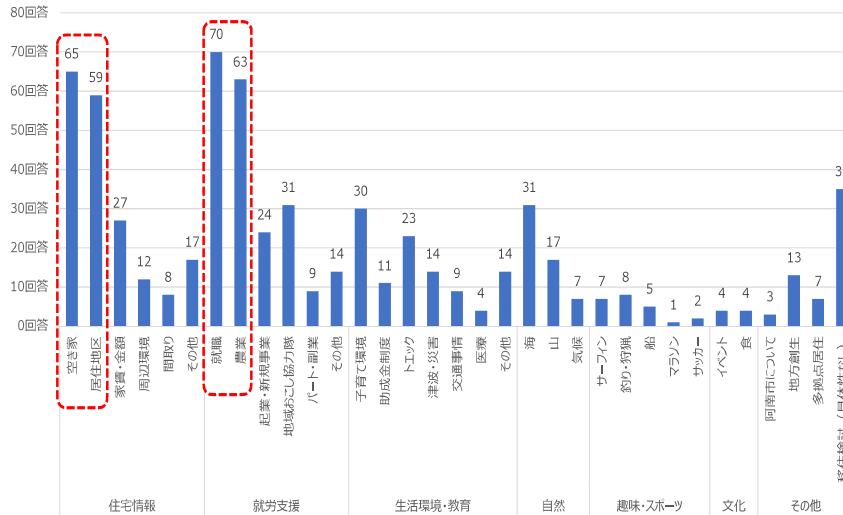
◆ 移住相談窓口データ：現在のデータから読み取れることと課題



自由記述からの
ニーズ把握

空家と就職・就農、居住地区が興味上位
→経年の変化はあるか？ 要再分析

自由記述 頻出キーワード



保有データ
ニーズ
2/2

② SUP大会参加者アンケート

【アンケートの背景】

- ✓ 継続的な取組みを行うために ⇒ 取り組みの効果を測定していく必要性
- ✓ しかし、定まった測定方法が確定できていないという現状

【アンケートの目的】

関係人口創出・深化の取組みの効果について、中長期で実施できる**効果測定方法を確定していくことを目的**とし、本調査では**指標の検討**のためのアンケートを実施した。

【アンケートの実施状況】

SUPによる関係人口創出・拡大事業として、国際大会招致に向けた初めてのSUP大会が阿南市淡島ビーチで開催され、114名（県外72名）が参加。当日、参加者を対象に「阿南の来訪歴、認知度、今後の関わり方、移住の可能性」など、関係人口をテーマにしたアンケートを実施した。

アンケートはWEB方式とし、大正大学の実習生がQRコード及び抽選プレゼントを盛り込んだフライヤーを配布して協力を呼びかけ、参加型の楽しいアンケートを実施することができた。



アンケートの流れ

参考：★SUP大会アンケート_作業用_rawdata_1026

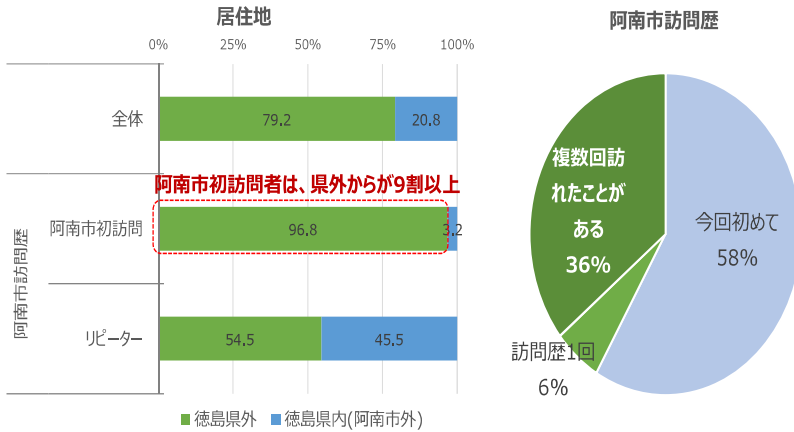


- 実施日 2020年10月25日
- 配布数
(※参加者人数からの推計値)
- 回収数 53 (約46.5%)



◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

テーマ型イベント（今回のSUP大会）の阿南市誘致効果



(テーマ性、イベントの性質による)

➡ 県外からの訪問客誘致に効果的である可能性がある
⇒ 今後、イベントごとに測定することで、特性が明らかになる

◀◀◀ 関係人口深化or創出の見極め

大会誘致効果
1/2

SUP大会というテーマ型イベントでの、訪問者誘致効果を検証する



【このアンケートから見えてきた具体的な改善ポイント】

- ✓ 全体回収数が少ないため、効果などについては断定できない
- ✓ アンケート回収方法について、統計的に有意となる方法が必要。現時点ではサンプル数をなるべく多くするための回収になっている（今年度はそれが目的であるから、良しであるが）
- ✓ 他のイベントとの比較、単純な観光客との比較などが行えていないため、SUPイベントの特徴とまでは断定できない。今後、比較データを収集していくことで解決。

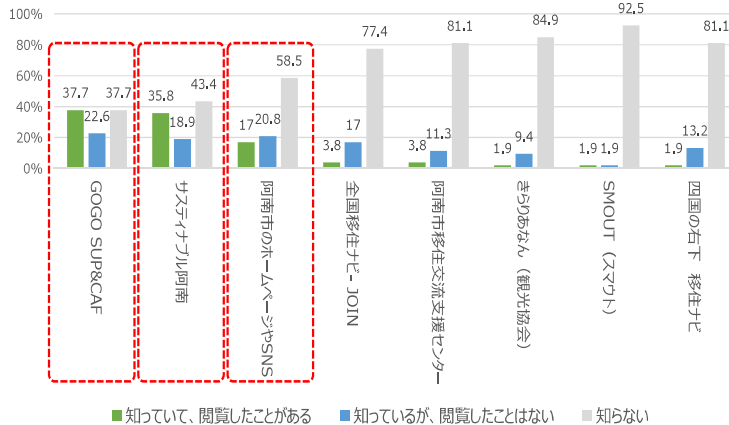
◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

💡 テーマ型イベントの媒体牽引力

テーマ型イベント参加者に届く媒体は？
⇒ **テーマ型媒体のみを活用**する傾向か？
(至極当然な結果)

次いで多い媒体
⇒ **テーマ型媒体が情報連携している媒体**

媒体別 活用度・認知度



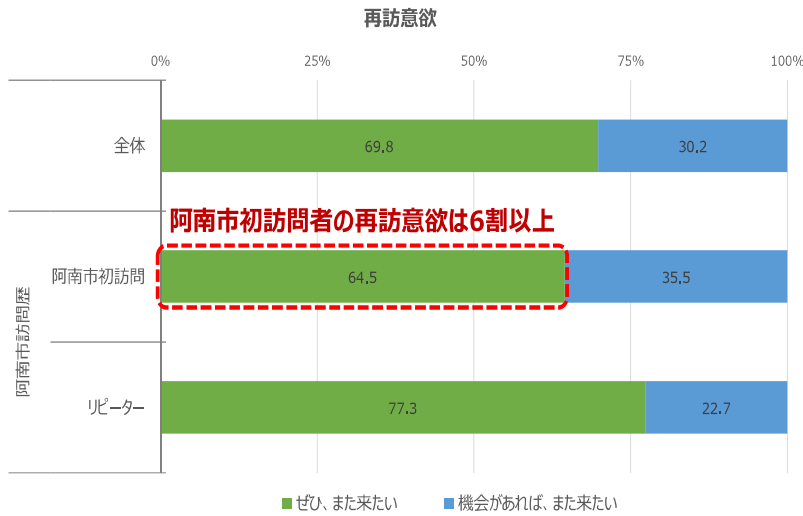
➡ テーマ型イベントの媒体による阿南市全体の告知効果が
高い可能性がある

◀◀◀ 関係人口創出政策に効く

大会誘致効果
2/2

◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

初訪問者はリピーターとなるか？



阿南市初訪問者の再訪意欲は6割以上

訪問意欲を測定する調査は非常に難しいが、**イベント参加の印象として捉える**ことは可能である。
⇒リピーター化には必要条件と言える

初訪問者が経験したことは...
(次ページ)

初訪問者の再訪意欲 (リピーター化)

1/2

初訪問者は、どのような要素があると再訪意欲を高めるのか。



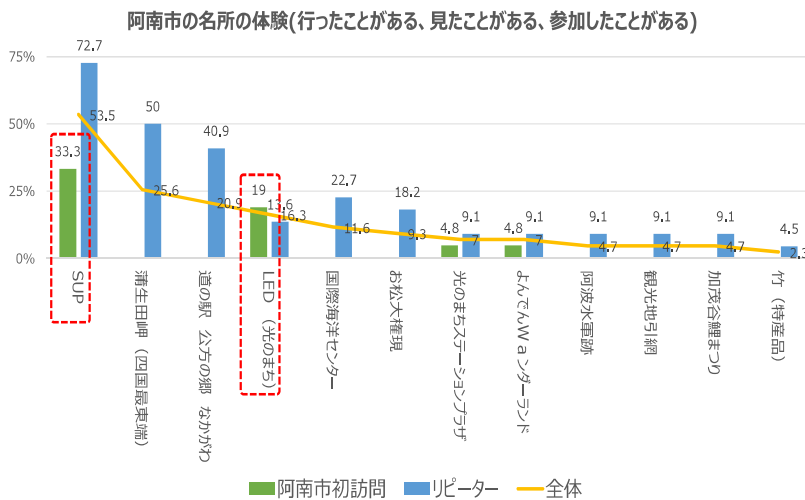
【このアンケートから見てきた具体的な改善ポイント】

- ✓ 再訪意欲を、そのままストレートに解釈できない。しかし、**印象が良い**ということはリピーター化に重要な要素と捉えて継続測定していくべきと考え、その質問方法などは検討が必要。
- ✓ 初訪問者が**再訪したくなる要因は、今回のアンケートではとれていない。アンケート実施の際の入り口が広すぎる点**を再設計が必要。
- ✓ 阿南市の何を知ってもらい、体験してもらいたいのか、**地域資源の選択と名称の統一**などを再整備して調査する必要がある。

◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題

初訪問者が体験したこと

初訪問者は、**SUP以外ほとんど体験していない** (翌日行く可能性もある)
⇒しかし、再訪意欲がある
「光のまち」というPRは一定の効果が出ている可能性がある
⇒一方で、有名な観光スポットへの誘導が低い ⇒対象を絞るといい点では良いか？



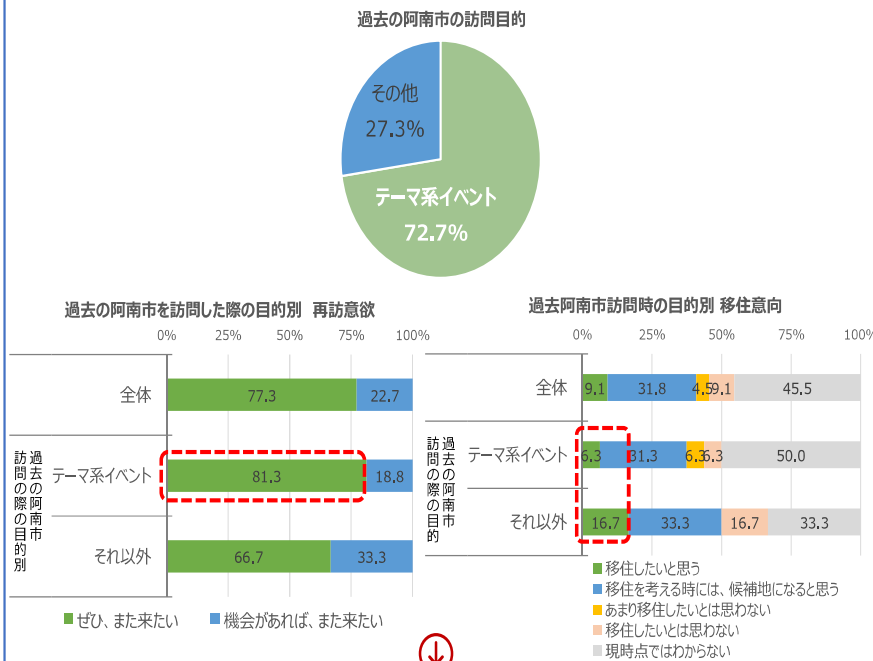
➡ 初めて訪問した人たちに、阿南市の何を知ってもらい、体験してもらるか？ 政策方向性

関係人口創出政策に効く

初訪問者の再訪意欲 (リピーター化)

2/2

◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題
リピーターの地域活動意欲（関係人口のアウトカムについて）



テーマ型イベントの参加者はリピート率は高いが、移住意向はそこまでではない

リピーターの
関係深化
1/2

今回の訪問が2度目以上を対象にリピーターの関係深化を分析する。

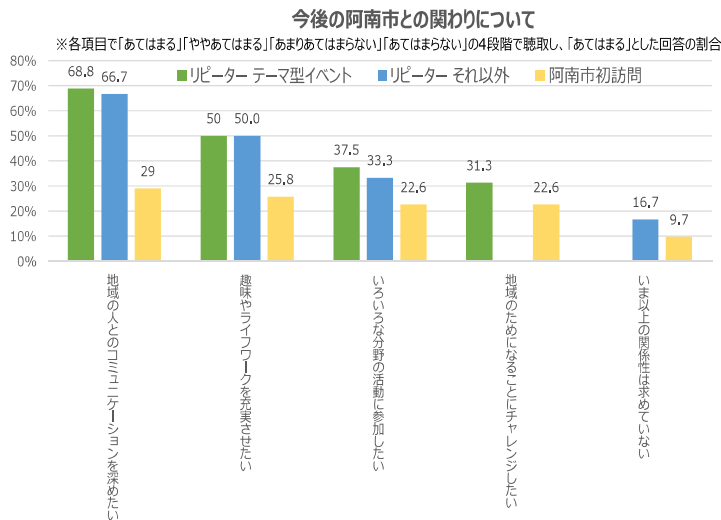
- 【このアンケートから見えてきた具体的な改善ポイント】
- ✓ リピーター、関係人口などの概念を、最終的な政策の方向性に合致させ、アンケートの設問で**分類を明確にする必要がある**
 - ✓ 地域貢献意向の設問は、今回国交省のものを利用したが、**阿南市に合った項目で実施する必要があるのではないか、検討が必要**
 - ✓ 地域貢献意向が強くなる要因、**イベントの特性には何かがあるか検証できるようにしていく必要がある**。
(仮説：環境意識の啓発など有効では?)

※過去の阿南市訪問の目的について「スポーツ、芸能、グルメイベントの参加と回答した人を今回に限りSUP関連と読み替えて分析した。
(本アンケート分析は、今後の調査方針を検討することが主目的であり、結果の統計的有意性を判定することが主目的ではないため。)

◆ SUP大会参加者アンケート：現在のデータから読み取れることと課題
リピーターの地域活動意欲（関係人口のアウトカムについて）

リピーターの
地域貢献意向

リピーターの地域貢献意向が高い傾向がみられた

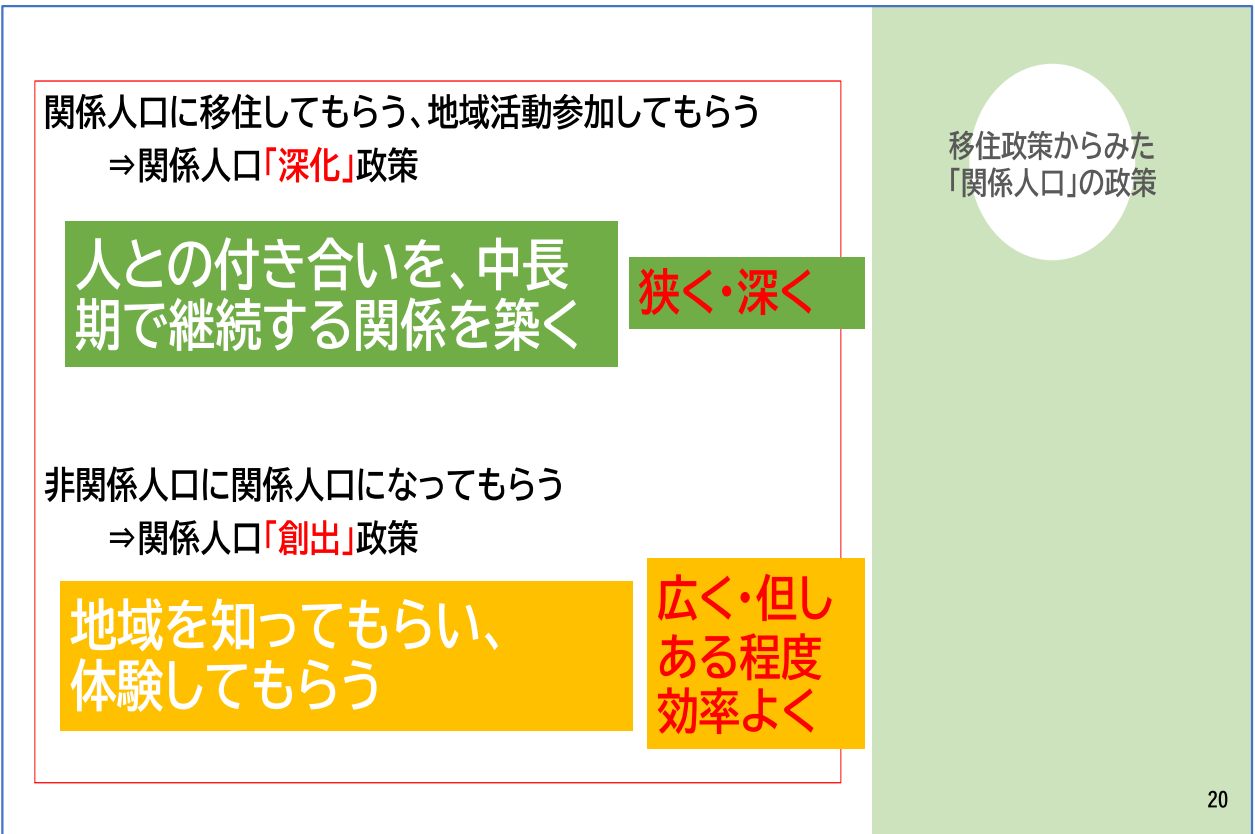
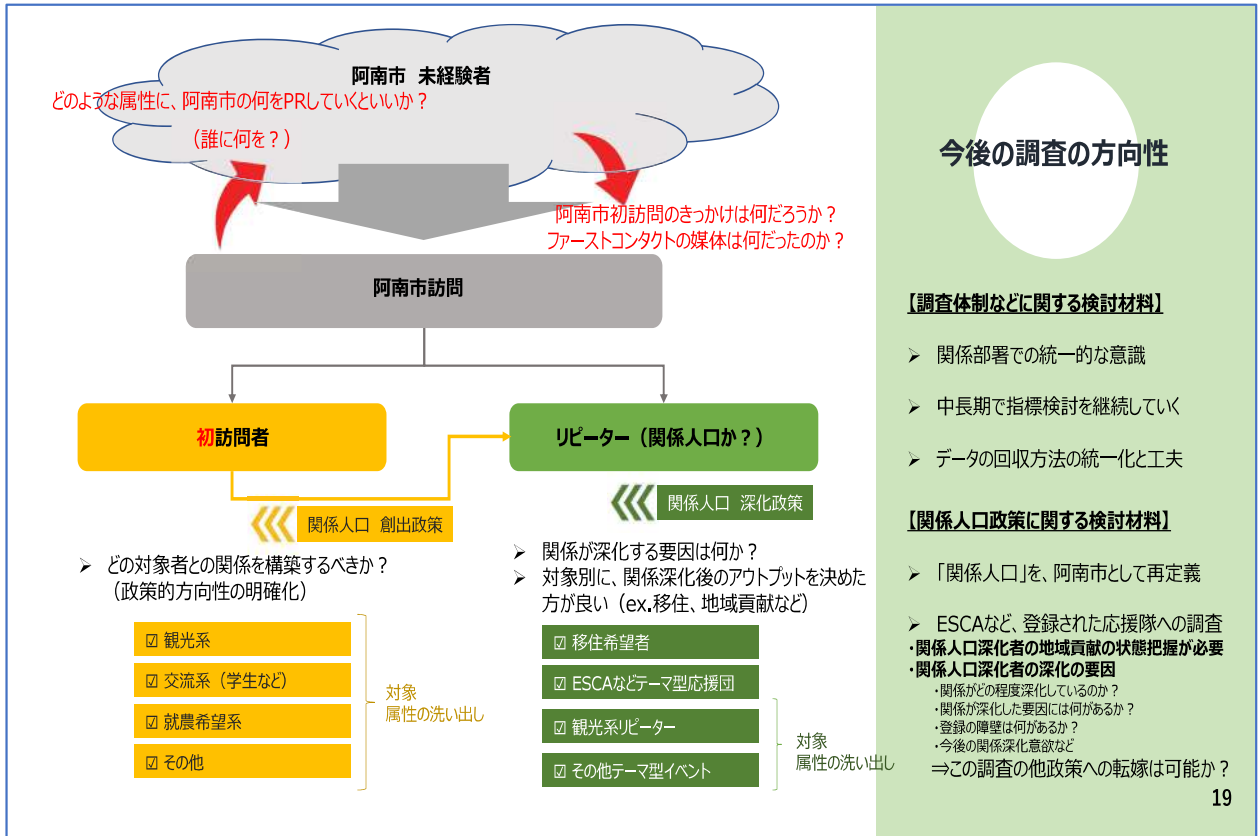


➡ テーマ型イベント、特に今回のSUPイベントは、地域貢献意向の強い人が多い傾向
⇒関係人口の深化に効いている可能性がある



関係人口深化政策に効く

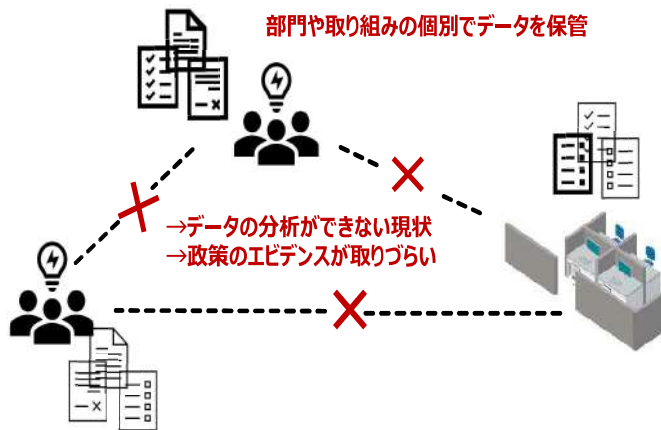
リピーターの
関係深化
2/2



③戦略策定に必要なデータ整備（提案）

【現状の課題】

- ✓ 個別単体での情報収集→イベント単位、プロジェクト単位で情報収集を行っている
- ✓ 経年の積み上げデータが存在しているものの、分析可能なデータ形式で保管されていない（加工が必要）
- ✓ 属人的な指標の設定になってしまっており、政策ゴールとの紐づけがやや乏しい



簡易的な入力フォームで
統一的な指標と入力

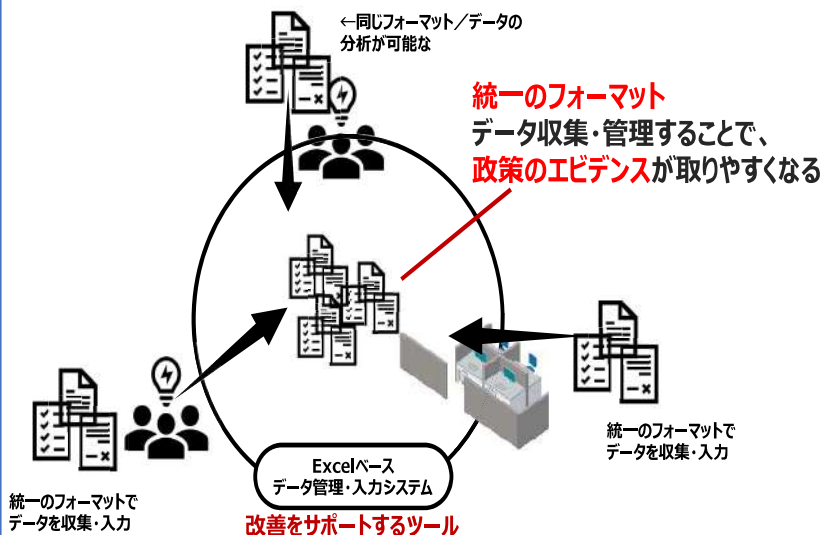
- 大規模なシステムは必要なし
- エクセルのマクロで実施
- 各職員のPC端末上で操作可能に
⇒そのためには、若干の仕組みが必要だが
まずは「人口政策」に関わる部署のみで実施
- 地域外の人の情報を集約する

21

③戦略策定に必要なデータ整備（提案）

【改善案】

- ✓ データの入力端末は各部署、各自で行えるが、収集データを一括に集める
- ✓ 収集するデータの指標を、**政策ゴールと紐づけて**庁内の一定の統一を図る



簡易的な入力フォームで
統一的な指標と入力

- 大規模なシステムは必要なし
- エクセルのマクロで実施
- 各職員のPC端末上で操作可能に
⇒そのためには、若干の仕組みが必要だが
まずは「人口政策」に関わる部署のみで実施
- 地域外の人の情報を集約する

スタートは
部署間データ連携の前に

「外部人材データ」という
他部署とはやや異なる
データを保有している
「シティブロモーション」部門内の
データ統一化を目指す 22

③戦略策定に必要なデータ整備（提案）

簡易入力フォーム イメージ①

<入力画面イメージ>

データエントリー・集計画面

問合せ状態		移住を検討している地域	G	複数選択	データ格納
相談日付		移住検討地域の特色支援拠出体からの情報希望提供希望	希望する		
問合せ方法		興味のある情報	就農	複数選択	DB表示
問合せ方法：その他	その他	興味のある情報：その他	農業	その他	
性別		移住先での希望就労形態	農業		
年齢		移住先での希望就労形態：自由業		自由業	集計分析
職業		移住先での希望就労形態：その他		その他	
職業：その他	その他	移住先での希望物件	賃貸：集合住宅		
郵便番号		希望する広さ	80㎡		
家族構成		希望の間取り	3LDK		
家族構成：その他	その他	提供資料	A	複数選択	
出身地		提供資料：その他	その他	その他	
同行者	複数選択	対応者	西郷隆盛		
移住希望時期		相談内容	なし		
移住先として関心ある場所	複数選択	対応状況	頂調		保存終了
集計開始日	2021/1/1	集計終了日	2021/6/30		

簡易的な入力フォームで
統一的な指標と入力

③戦略策定に必要なデータ整備（提案）

簡易入力フォーム イメージ②

<データベースシートイメージ>

性別	年齢	職業	出身地	同行者	移住先	希望する物件	希望する広さ	希望の間取り	提供資料	対応者	相談内容	対応状況
男性	39	農業	東京都	なし	希望する	農業	80㎡	3LDK	A	西郷隆盛	なし	頂調
男性	39	農業	東京都	なし	希望する	農業	80㎡	3LDK	A	西郷隆盛	なし	頂調
男性	39	農業	東京都	なし	希望する	農業	80㎡	3LDK	A	西郷隆盛	なし	頂調
男性	39	農業	東京都	なし	希望する	農業	80㎡	3LDK	A	西郷隆盛	なし	頂調
男性	39	農業	東京都	なし	希望する	農業	80㎡	3LDK	A	西郷隆盛	なし	頂調

簡易的な入力フォームで
統一的な指標と入力

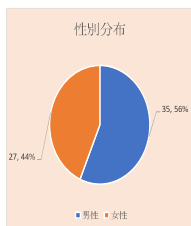
<集計・分析結果イメージ>

UI表示

保存終了

区分	男性	女性	母数
人数	35	27	62
比率	56.5%	43.5%	100.0%

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	母数
人数	4	18	15	13	8	4	62
比率	6.5%	29.0%	24.2%	21.0%	12.9%	6.5%	100.0%



研修会の開催

自治体職員や移住関係者を対象に、関係人口施策のヒントを学ぶ研修会を開催しました。



関係人口の「今日までそして明日から」

関係人口の創出 & 深化に向けて

研修会

日時 2021年3月16日(火) 14:00～

場所 Nuun (ヌーン) 阿南市富岡町今福寺 49-10

阿南駅から徒歩3分 駐車場あり TEL 080-3169-2845

対象 自治体職員、地域おこし協力隊、移住関係者

関係人口って何をすればいいの？ どうやって効果を測るの？そういった悩みを持つ市職員、市民の皆さん、活動団体の方々に向け、with コロナ時代の成果につながる関係人口施策のヒントを学ぶ勉強会を実施します。前半は、実際に阿南市で活動する「地域おこし協力隊」の事例発表と2020年の関係人口創出事業で実施した「阿南 SUP タウンプロジェクト」の成果報告を聴きます。後半は、シティプロモーションや関係人口の研究をしてきている大正大学の中島ゆき氏から、最新の関係人口の方向性やトレンドについて事例を交えたお話を伺います。最後は、令和3年度の新たな「関係人口」の取組みに向け、登壇者や参加者との活発な意見交換会も実施します。

●事例発表 14:00～

阿南市地域おこし協力隊 岡崎裕樹

「徳島・阿南・加茂谷とともに歩みたい
コーヒーでまちづくり!? カモ谷製作舎」



●成果報告 14:20～

(株)すだっち阿南 鈴江省吾

「阿南 SUP タウンプロジェクト 2020」

中島 ゆき

(大正大学地域構想研究所主任研究員)

●リモート講演 14:30～

講師 中島ゆき&(株)フェイスコム

関係人口「創出」か「深化」か、政策立案と取組みのツボ (中島)

首都圏の「関係人口者」に聞いた！関係人口トレンド報告 (フェイスコム)

～意見交換～



広告業界に長く在籍し、その間、多くの企業のプロモーション戦略やマーケティング分析に携わる。現在は、これまでの経験を生かし自治体のマーケティングやプロモーションコンサルタント業に従事。専門は地域経済学、地域マーケティング。最近「新規開業」研究 ⇒ 「職住近接のまちづくり」を生かしたシティプロモーションがテーマです。

主催 阿南市 大正大学の連携事業

「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」

参加申込書		会場・リモート (参加方法に○をつけてください)	
名前	所属	連絡先 (電話番号)	リモート参加 (メールアドレス)

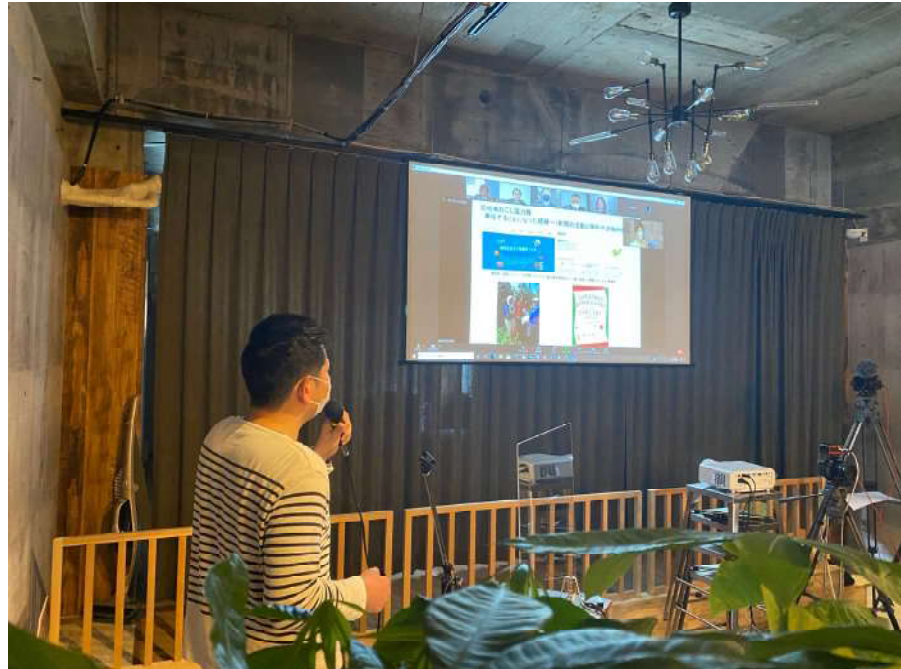
(後日、ZOOM参加のURL送ります)

申込先 大正大学地域構想研究所阿南支局 (鈴江) 0884-49-3899 (Tel/Fax) E-mail s_suzue@mail.tais.ac.jp

当日は会場で18名（阿南市、徳島県南部総合県民局、美波町の自治体職員・地域おこし協力隊員など）、オンラインで10名（大正大学地域創生学部学生、地元信用金庫など）の参加者が熱心に耳を傾けました。

会場は中心市街地の空き店舗を改修して誕生した

カフェ ヌーン
NuuN



●事例発表

岡崎さんからは、コーヒー業界での経験や家族の紹介をはじめ、地域おこし協力隊員として移住を決断するまでの経緯や受け入れ団体の加茂谷元気なまちづくり会の活動状況、そして「コーヒーと衣料で地域をつなぎたい」との想いでカモ谷製作舎を創業し、奮闘する近況を熱く語っていただきました。

自己紹介

バリ(岡崎 裕樹)

- ・昭和57年生まれ 38歳
- ・家族構成:妻・子供(4歳と2歳)
- ・徳島県板野郡松茂町出身
- ・徳島県立徳島東工業高等学校卒業
- ・大阪7年、東京7年在住(2006年～2020年)

コーヒー業界に14年従事

バリスタ 3年
エスプレッソ関係のメニュー開発
バリスタの育成など

コーヒー豆の問屋(生豆、焙煎豆) 3年
焙煎、販売
生豆の仕入れに関するサポート
自家焙煎店へのアドバイス

焙煎機とミルの製造販売 7年～
機器のメンテナンス、据付工事
販売、コーヒーセミナーの設計
焙煎技術の指導

知識技術の向上を目的とした勉強会開催

(2012～)
焙煎競技会でチャンピオンや入賞者を多数輩出
JCRC(ジャパンローステイングチャンピオンシップ)
4年連続日本一 2016・2017・2018・2019年
2019年世界2位

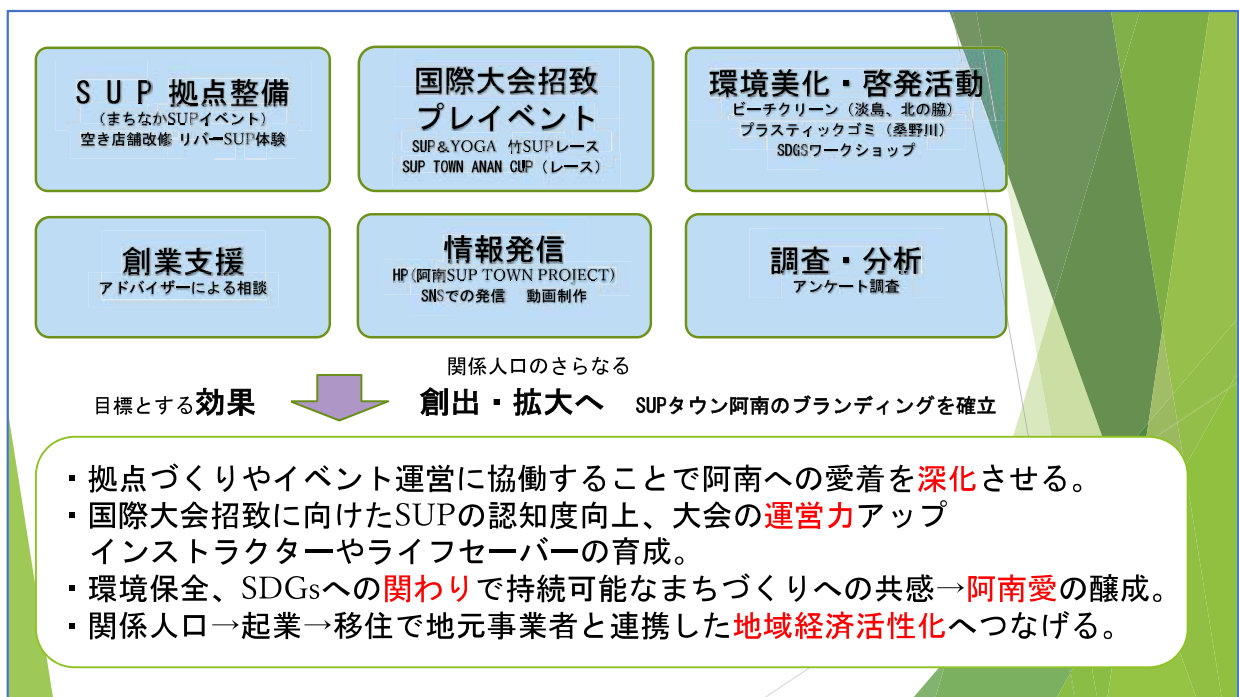


③創業検討(計画)～創業、そして3ヶ月経った現在



●成果報告

2020年度総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業の成果について（株）すだっち阿南から発表がありました。阿南市の豊かな海岸で楽しめるSUPを核に関係人口を呼び込み、地元パドラーや企業と協働して環境保全活動に取り組むことで、阿南市への愛着を深めてもらうSUPタウンプロジェクトの狙い、ESCAやESPAなどの推進体制、実施したビーチクリーン・SUPヨガ・竹SUP・まちなかSUP・SUPレースなどのイベント内容、そして関係人口から阿南市での創業が実現したことなどが報告されました。



●リモート講演


中島主任研究員より、「関係人口が、なぜ地域で必要なのか？」
「どんな取り組みがいいのか？創出か深化か・・・」をテーマに各地の事例を交えながら基本的な関係人口のノウハウを講演しました。

(講演の要旨)

2020年の第2期「地方版総合戦略」から新たに登場した「関係人口」だが、「誰を対象に、何をすればいいのか？」が曖昧になっている地域が見受けられる。「関係人口」は必ずしも移住を最終目的にしなくてもよいとされてきたが、移住につながれば地域のモチベーションは高まる。「創出」か「深化」については、「創出」はまず関係人口になってもらうために地域を知ってもらい体験してもらうことが大事で、参加のしやすいパッケージが有効。一方「深化」は地域活動に参加してもらうなど、人との付き合いを中長期で継続する関係が求められ「狭く深く」がキーワードとなる。(ここで全国の取組を紹介)。地域のファンを増やす仕組みが必要で、顧客データの視点からマーケティング活動を行うことが大切だ。

阿南市 大正大学の連携事業
「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」

関係人口「創出」か「深化」か



大正大学 地域構想研究所
シティプロモーション・プロジェクト 主任研究員
中島ゆき (y_nakajima@mail.tais.ac.jp)

大正大学 地域構想研究所
URL: <http://chisouken.jp/>
事務局MAIL: chisouken_office@mail.tais.ac.jp

どんな取り組みがいいのか？

4. 関係人口の「深化」

人との付き合いを、中長期で継続する関係を築く
狭く・深く

- ① 継続コンタクトで愛着を持つ
- ② お互い知っている 特別感
- ③ 自分（関係人口）も成長できる学び

調査結果 ↓

関係人口が、なぜ地域で必要なのか？

2. シティプロモーションの新潮流としての「関係人口」

2020年 第2期「地方版総合戦略」から新たに「関係人口」が登場

タイプ	何を (ブランド化の対象)	誰に (ターゲット)	効果測定 (成果指標)
観光型	観光地(名所、スポットなど)	旅行者(地域外)	交流人口
産物型	産物(特産品、グルメなど)	消費者	売上
居住地型	住環境	地域住民 地域外住民	定住人口 移住人口
企業誘致型	立地条件(アクセス、施設など)	企業	企業誘致数
イベント型	開催条件(アクセス、施設、集客力など)	企業、団体	開催数(来場者数)

・誰に
・何を
あいまいな地域が多い

背景的に「東京一極集中の是正」がある
総務省「関係人口」ポータルサイトによる定義：「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々を指します。

どんな取り組みがいいのか？

4. 関係人口の「深化」

人との付き合いを、中長期で継続する関係を築く
狭く・深く

地域のファンを増やす
⇒ しくみが必要
⇒ 顧客データで
マーケティング的活動

続いて（株）フェイスコム岩城研究員より首都圏で調査した結果をもとに「首都圏の関係人口の動向」と題して、講演をいただきました。

（講演の要旨）

首都圏の18歳以上の男女701名を対象としたアンケートでは、移住意向の度合いに差はあるが26.3%が関係人口と呼べる数字となっている。関係人口は地域での関わり方から

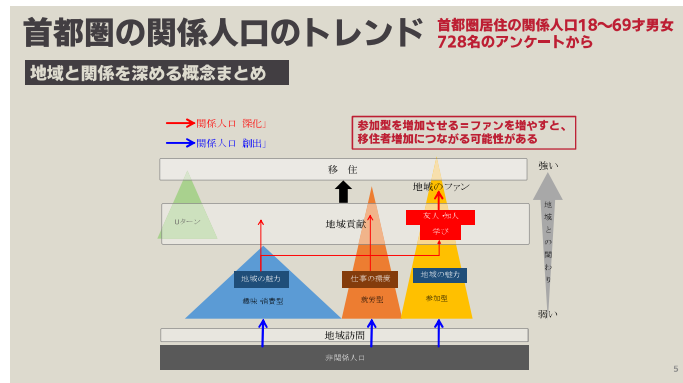
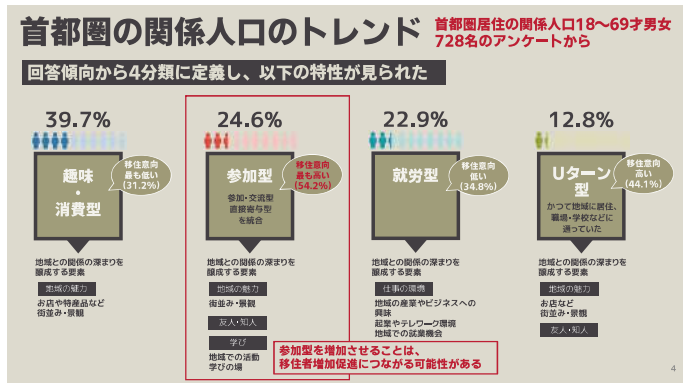
「趣味・消費型」「参加・交流型

「直接寄与型」「就労型」の4つに分類され、参加・交流型が移住意向が最も高い。首都圏の関係人口のトレンドをまとめると、関係人口の「創出」は参加型が入り口となり、「深化」そして「移住」に結びつけるためには参加型で地域のファンを増やすことが重要・・・つまりここでも「狭く深く」がキーワードとなる。その傾向を裏付けるような、23名へのインタビューで得た関係人口の「声」を紹介する。

●意見交換

講演終了後、会場とリモートで講師と意見交換を行った。主な意見として、関係人口の受け入れをサポートする中間支援組織（個人や企業）

の役割やそのサポート体制を維持するための支援策の重要性、参加・交流型として、村祭りなど地域のイベントを共に盛り上げることで関係人口の深化を図っている美波町の例などの提言もあり、参加者全員が関係人口の課題や今後の有効な施策について共通認識を持つことができた。



首都圏の関係人口の【声】 首都圏居住の関係人口19～66才男女 23名のインタビューから

趣味・消費傾向②

- 現地に行くと、**地域の人**が**美味しい飲食店**を教えてくれるので、特産品を買ったり、食事を楽しめる（男性/50代）
- かつて漁業が盛んだったので、安くて美味しい海産物が購入できる、天然温泉がある、**サイクリングが趣味**なので、シェアサイクルのポートも多くある、など色々知ること、訪問頻度が5～6年に1回から1年に1～2回行くようになった（女性/30代）
- 歴史的建造物など昔からの街並みが残っていて気に入っているが、それ以上に**地域で 会う人々との関わり**が重要（男性/50代）

VOICE

地域と関係を深めるようになった理由



1 SUP団体「Paddler Japan」の主宰者で、ヨガ講師としても有名なTAMAOさんが指導した体験会の模様。2 阿南市特産の竹で作ったイカダでSUPを楽しむ子どもたち。

report

徳島・阿南市でSUPで関係人口増やす取り組みに注目

取材・文・撮影 ● 鈴江省吾
（大正大学地域構想研究所阿南支局長）

自

然豊かなビーチに恵まれた徳島県阿南市では、2018年からSUP（Stand Up Paddle）体験を通じて、地域や地域の人々と多様に関わる人を指す「関係人口」を増やし、まちを元気にする「阿南SUPタウンプロジェクト」に取り組んでいる。SUPは、ボードの上に乗って一本のパドルで海や川辺などの水面を進むスポーツ。サーフボードよ

り安定感があって子供から大人まで気軽に楽しむことができ、体幹を鍛えるSUPヨガも女性に大人気だ。

9月10日には、市内の北の脇海水浴場でSUP&ヨガ体験会を実施。新型コロナウイルスに十分配慮した運営を行い、多くの参加者でにぎわった。

昨年は総務省の関係人口創出・拡大事業の採択を受けて、SUP体験会、台湾など外国人を対象にしたモニターツアー、PR動画制作等を実施し、好評を博した。

そして2020年度は海や地球環境の保全に意識の高い県外のマリンスポーツの愛好家とSUPを通じて交流し、関係人口のさらなる拡大を目指す新しい取り組みが始まった。

事業のコンセプトは、SUPを通じて生まれた交流を「環境に配慮した持続可能なまちづくりへの協働」へ深化させ、関係人口の創業を支援して地域経済を活性化させようとするものだ。数年後のSUP国際大会招致を見据えたイベントも実施する。

この事業の主役となるのが7月から市EPOやSNSで募集を開始した、県外在住の個人会員ESCA

（エスカ、EARTH SHIP CREW ANAN）と市内の事業所ESPA（エスパ、EARTH SHIP PARTNER ANAN）制度だ。ESCAの皆さんには「空き店舗を活用した街中SUP拠点整備」「ビーチクリーン」「プラスチックゴミ回収」「竹SUP作り」「国内有名選手のSUP大会」といったイベントに地元

のSUP愛好者等と共に参加することで、徐々に関係を深め、継続的に阿南を訪れる熱烈ファンになってもらうというもの。さらに、「大好きな阿南に定住し、この地で事業を起こしたい」という人には、中小企業診断士が起業相談に応じる予定だ。

一方、ESPAは環境保全活動を実践して企業ブランディングを高め、来市するESCAに特典サービスを提供するほか、ふるさと納税の返礼品等を通じて、サステナブルなまち、阿南市を全国にPRする一翼を担う。

昨年には大正大学地域創生学部阿南実習生がSUPを体験した。



3 9月13日の体験会では、紀伊水道に面し、美しい砂浜が広がる阿南市で多くの人がSUPを楽しんだ。4 ESCA（エスカ、EARTH SHIP CREW ANAN）会員募集のチラシ。



筆者自身も数年前からカヤックフィッシングを始め、阿南の美しい海岸に魅了されている。

コロナ禍で働き方やライフスタイルが大きく見直される中、自然と触れ合うSUPフィールドとして、マリンスポーツの仲間づくりの場として、あるいは新たなビジネスの拠点や移住先として、阿南市の可能性はますます膨らんでいる。

阿南市は、SUPをはじめとする取り組みの効果を分析し、関係人口拡大の戦略につなげる研究事業を今年から大正大学に委託し、阿南支局がその役割を担っている。新たなS（スタート）UP（アップ）が始まる今年、これからの阿南市の取り組みに注目してほしい。

4. 高校生ミライ新聞

平成 29 年度から毎年 11 月に実施していた「高校生ミライ会議」は、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、やむなく中止することといたしました。しかしながら、定着しつつあった市内高校生と地域・企業との交流を継続させるため、これまでミライ会議の様子をダイジェストで紹介していた「高校生ミライ新聞」をコロナ禍の中で頑張っている若者の姿を伝える内容に変更して制作することとなりました。具体的には「過去のミライ会議に出席した生徒」「まちづくりに参画した現役高校生」などを密着取材して、ミライ会議が高校生に与えた影響や「総合的な探求の時間」を活用して積極的に地域と関わり始めた高校生の活動の様子をまとめました。完成した新聞は市内各高校や関係機関に必要部数を配布いたしました。

【取材の様子】



【高校への案内文書（例）】

令和3年2月5日

県立富岡東高等学校
外山先生 様

大正大学地域構想研究所阿南支局
鈴 江 省 吾

高校生ミライ新聞の取材について

日頃は各般にわたり大変お世話になっております。そしてこの1年、新型コロナ禍で授業や学校行事に細心の注意を払う日々が続き、そのご労苦をお察しいたします。そのような状況から、例年11月に開催していた「高校生ミライ会議」は留保してまいりましたが、第3波の感染拡大が続く現下での開催は困難と判断し、本年は中止することいたしました。

しかしながら、このような時だからこそ、コロナ禍の中で頑張っている若者の姿を伝えたいとの思いがあり、これまでミライ会議の様子をダイジェストでまとめていた「高校生ミライ新聞」について形を変えて制作したいと考えています。「過去のミライ会議に出席した生徒は今どうしているか」「まちづくりに参画した現役生徒の活動」などを紹介する内容とし、取材させていただく生徒等につきましては個別に感染対策に万全を期して聴き取りを行います。

以上、趣旨をご理解いただき、該当する高校生の取材についてご配慮をお願い申し上げます。

【取材要領】

- ・期 間 令和3年2月15日～19日のいずれかの日で調整
- ・取材者 大正大学学生（リモート）、大正大学地域構想研究所阿南支局（鈴江）
- ・対象者 A 過去のミライ会議参加者 1名
B まちづくり参画の高校生 2名
*まちマルシェやバス停壁画に取り組んだ2年生の館野さん、神崎さんを予定
- ・内 容 A 近況、ミライ会議の思い出、高校生に伝えたいこと、これからの未来など
B 行動に至ったきっかけ、地域との関わりで学んだこと、達成感、進路など
- ・方 法 大正大学阿南支局（阿南駅西口）にて聞き取り・リモート取材を併用
- ・配 布 新聞は各高校や関係機関に配布予定

【連絡先】

774-0030 阿南市富岡町今福寺42-1
大正大学地域構想研究所阿南支局（鈴江）
Tel 0884-49-3899 携帯 090-9554-4879 E-mail s_suzue@mail.tais.ac.jp

Future newspaper

高校生ミライ新聞

発行 富岡東高等学校
 編集 河南死蔵高等学校
 大正大学附属
 富岡西高等学校
 河南工業高等学校

VOL.3



富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。

富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。

福知山を舞台にまちづくりに取り組んでいます

井庄彰乃（富岡西・福知山公立大学）



第1回夢見



高校生ミライ新聞



富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。

富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。

徳島で働きたいと思ってくれる姿を見せたい

成松 凌太（富岡東・富岡工業高等学校）



第1回夢見



これまでのミライ会議出席者を直撃「あの人は今」

農業への思いが生物の研究へ

新井ひかる（富岡西高校・岡山大学）



第2回夢見

富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。

あの時の夢を実現したい

松島 文太（富岡東高校・立命館大学）



第1回夢見



富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。

富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。



富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。

富岡東高等学校の有志者が中心となり、本校の有志者や関係者から集めた記事をまとめた「高校生ミライ新聞」が、2018年10月10日（水）に発行されました。この新聞は、本校の生徒が、自分たちの未来について、何を考えているのか、何をしたいのか、何を夢んでいるのか、などを、自分たちの言葉で、自分たちの未来について、語り合っています。

eスポーツで全ての人が輝けるように

西岡 昌幸（富岡東・富岡工業高等学校）



第3回夢見



体験型ミライ会議を!!

藤本 基輝（富岡西高校・日本化学工業）



第2回夢見



阿南市の現役高校生の取組紹介

阿南光高校



今回の企画は大成功!!
卒業生に贈る自分たちが作った花火
産学官連携(1)年
産学官連携(2)年

阿南市の現役高校生が、地域貢献の一環として、阿南市の各施設を訪れ、地域貢献活動を行っています。阿南市の各施設を訪れ、地域貢献活動を行っています。阿南市の各施設を訪れ、地域貢献活動を行っています。

高校生は地域から何を学ぶのか!!

今、Society5.0やSDGsの未来・・・など、将来予測が難しい社会で生き抜く力が必要といわれています。高校の「総合的な探求の時間」では、社会とのかかわりの中で自分が何を学んでいるか、その課題を解決する力の育成を目指しています。学校以外の「まち・人・自然・産業」との新たな出会いが、自ら切り開く未来の原動力となるのです。地域（まち）で活躍した高校生たちの爽やかな地域射生への活躍をご紹介します。

富岡東高校



阿南を持続可能なまちにするために

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年



デザインの方で街を美しく

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年

マンゴシリゴシリが特徴

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年



阿南の情報発信は私にお任せください

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年

富岡西高校



空き家を学ぶの場へ

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年



ふるさとで活躍する先輩と若者を応援する阿南市からのメッセージです。

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年



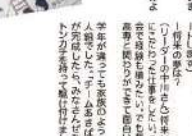
編集後記

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年



空き家を学ぶの場へ

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年



空き家を学ぶの場へ

産学官連携(1)年
産学官連携(2)年

5. 地域実習

地域創生を止めない ～新時代に向けたリモート地域実習の挑戦～

これまで大正大学地域創生学部は、阿南市で長期宿泊（約40日）を伴った実習を行ってきましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインでの実習となりました。現地に来ることが制約される中でも、阿南市とのつながりを深化させた阿南班の2年生（4人）と3年生（9人）の実習概要について紹介いたします。

【2年生】

～学生の「あなん愛」がいっぱい詰まった「おうちdeあなん」プロジェクト～

例年であれば、大正大学地域創生学部の2年生は1年次でお世話になった実習地をPRするために、大学アンテナショップ「座・ガモール（巢鴨）」や都内の各イベント会場等でそれぞれの特産品を販売する「地域マルシェ」を開催してきました。

2020年はコロナ禍でこのような活動が困難となりましたが学生たちは

知恵を絞り、新しいマーケティング手法「クラウドファンディング」を活用して情報を発信し、返礼品を通して実習地のファンになってもらう「オンラインマルシェ～ウェブde応援～」というプロジェクトを立ち上げました。

阿南班でも4名の学生が実習で関わった人や企業、食材に思いを馳せながらこの企画をスタートさせ、支局としても現地に来れない学生のサポートを行いました。まず、学生たちの頭に浮かんだのが「ウト・ウークのハンバーグ」でした。高校生に地元企業を紹介する「ミライ企業冊子」の取材で出会った店主の木元靖博さんは、地元の食材にこだわり、何世代にもわたって家族で来てくれる店を目指す若き経営者です。実習の最後に「このハンバーグがあったから頑張れた！」と学生が惚れ込んだお気に入りの店でした。もう一つが西地食品の「すだちシロップ」。阿南を都内でPRするために先輩たちが立ち上げた「あなんフェス」の人気メニューで、炭酸水やヨーグルトで割るとすだちの甘酸っぱさが爽快です。



8月から、学生たちと共に木元さんとリモートで作戦会議を重ね、ハンバーグをメインに阿南を代表する食材で彩る食卓をイメージした「おうちdeあなん」のアイデアが膨らんでいきました。そして、肉厚で芳醇な椎茸が自慢の「しいたけ侍カレー」。混ぜて炊くだけで筍の香りが広がる「タケノコご飯の素」。阿南の新鮮な魚を凝縮した「じゃこ天」。香りが抜群でいろいろな料理を引き立てる「ゆず」。ジャパンプルーとも言われる徳島特産の藍を使った「ハーブティー」。老舗「もみじや」からは阿波和三盆の和菓子とラインアップが揃い、青色LEDで有名な「光のまち阿南」にちなんで～食卓に光を～のサブタイトルも決まりました。



それから、学生が店主に電話をかけて各商品の特色や食品表示、賞味期限、納期などを確認し、「おうちdeあなん」のPR作戦開始です。まずは、写真撮影・・・ウト・ワークに商品を集め、リモートで学生とワイワイガヤガヤしながら撮影しました。そして大学や他の地域と連携しながらECサイト



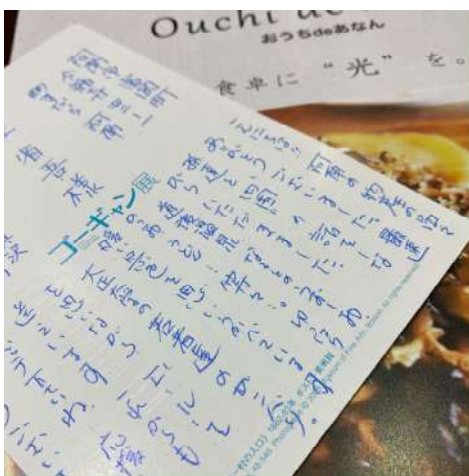
Ready forにエントリーして、「学生がお世話になった地域にby返し」・・・素敵な合同ポスターも出来上がりました。さらに阿南班では4人が役割分担して独自のFACEBOOK、インスタグラムを開設し「おうちdeあなん」を継続的にアピール。支援をいただいた方には、即座にECサイトにお礼のコメントを投稿して

感謝の気持ちを伝えます。また、地元阿南の人にも自分たちの取り組みを知っても

らいたいとメンバーが直訴して、徳島新聞にも大きく掲載されました。そうした努力と商品の魅力が合間って、期限内に目標50セットの支援を受けることができました。いよいよ発送です。学生とリモートでリストを確認し、支援いただいた方に阿南市のことをもっと知ってもらうために自分たちが制作したミライ企業冊子の他、観光や移住に関するパンフレット、またアンケート依頼文を添えます。おしゃれな箱に食材が中で動かないよう緩衝材を使って、仕上げは「おうちdeあなん」の黒いシールを貼って完成です。作業を学生にリモートで実況中継しながら観光物産館の職員にも協力をいただき、12月5日に全て発送を終えました。数日経った頃、1枚の葉書が支局に届きました。「阿南の物産の品

をありがとうございました・・・大正大学の若者たちのガンバリを思いながらエールを送ります・・・」。コロナ禍で一度も阿南に来ることもできなかった学生たちですが、支援していただいた人の思いはしっかりと伝わったはずです。今回の貴重な経験を糧として、学生たちと共に新たなチャレンジに取り組んで行きたいと思います。支援をいただいた皆さま、本当にありがとうございました。

(以上、地域構想研究所メルマガへの投稿文から抜粋)



【3年生】

～学生それぞれが独自テーマを設定し、実習地の協力を得ながら研究活動を進める～

(阿南班の各テーマと調査活動の一覧)

	テーマ	考えられる調査活動	協力・取材者
1	稲垣裕介 地域資源の付加価値、強みを生かした地方の魅力向上	農家民泊事例、新野町での取り組み、資源調査（市、県農林）、都市と地方のニーズ把握、インタビュー、アンケート	西地食品、碧、農家、徳島県果樹研究所・阿南市農林水産課、日の丸商店（とまこ）、サステナブル阿南
2	筒井涼斗 防災教育×地域創生 ～今後考えられる災害から人と地域を守るために～	各地の防災教育、車両デザインの研究、withコロナ時代の新たな防災の考察、阿南市の消防車、PR動画の制作、中高生へのアンケート、自治体ヒアリング	阿南市消防本部、阿南市各地域消防団、自主防災会、防災士、学校関係者、南三陸町・豊島区、現地視察
3	野尻祥希 「SUPで阿南市地域おこし」 ～関係人口の拡大を～	他地域のSUP関連事業調査、阿南の強みや認知度調査、ESCAなど関係人口へのアンケート・ヒアリング	ふるさと未来課、サステナブル阿南、ESCA
4	大西竜司 感染症対策に配慮した避難所運営への新たな提案	津波後の復旧シナリオ（南三陸の例）、都市計画、仮設テント立地、予想される被害（インフラ）、住民意識、全国（高知）の取り組み事例	阿南市まちづくり推進課、危機管理課、自主防災会、防災士、橘町、技研製作所
5	栗原悠輔 食品ロス問題について	阿南の食材の認知度調査、食材の生産現場調査、東京でのプロモーション、食品ロスや廃棄食材調査	全国民？
6	真田遥奈 阿南市の観光コンテンツを効果的に発信するために一番効果的なプロモーション方法は何か	阿南市の観光プロモーションの検証・意識調査、観光リンク集の作成、観光関係者へのインタビュー調査	(一社) グランフィットネス観光協会、四国の右下観光局、阿南市商工観光労政課
7	立松夕佳 「人」「チーム」の力を最大限生かすには	各地域のキーパーソンへのアンケート・ヒアリング、全国の事例の先進地調査（WEB,文献）	阿南市（ミライクル、サステナブル阿南、GFA観光協会、エランヴィタル・・・）室戸市（川島、椎名組合長・・・）
8	笹井舞穂 阿南市での子育て世代の地方移住	阿南の観光スポットMAP作成、子育て支援ブックのまとめ	阿南ファミリーサポートセンター、阿南市ふるさと未来課、マリッサ（婚活）、移住コーディネーター、ミライクル
9	山下裕香 地域コミュニティと若者の居場所	NuuNの取り組み、高校生ミライ会議での聞き取り、広報媒体及び報告書の作成	高校生ミライ会議、新野町ミライ会議、室戸市の太刀踊り保存会、神祭、たのしいな・・・

活動の様子



富岡西高校とのリモート交流会報告書 (県南キャンパス事業)

発表

グループ（4つのテーマ）での意見交換の内容や感想、提案を全体で共有した。



A 防災チーム



学校の体育館が避難所として多く使われているが、コロナ対策で入りの制限をかける必要があるため、教室を避難所として活用している事例を知ることができた。

B 食農チーム



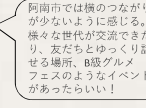
ゆこうを使ったレンビをスーパに置くことや、SNSで発信することでゆこうの認知度を上げることができる！「献立を考えてから買い物に行く」ことで、食品ロスを減らしていける。

C 関係人口チーム



「18歳まで医療費が無料」のような子育て支援、住みやすさなど阿南市の強みを宣伝していくのは？阿南駅マチアソビのような企画から人が集まるようなイベントを開催しては？

D まちづくり・若者コミュニティチーム



阿南市では横のつながりが少ないように感じる。様々な世代が交流できたり、友だちとゆっくり話せる場所、協賛がフェニスのようなイベントがあったらいい！

富岡西高校 進路・情報課長 長瀬慎一郎

大正大学阿南支局長 鈴江吾吾

大学生と富西生が良い雰囲気できている。今回の交流が大学生の研究のプラサーファになった嬉しい。高校生にとっても大学のイメージがつかめる良い機会になった。

講評

慣れないリモート交流会で戸惑いがあったが、高校生の皆さんは大学生の話を生懸命に聞いてうまく発表をまとめてくれた。大学生はこの交流で得た収穫を研究の深化に繋げてもらいたい。

発行者：大正大学地域創生学部（東京都豊島区西巣鴨3-20-1）
監修：大正大学地域構想研究所阿南支所（徳島県阿南市富岡町今福寺42-1）
TEL・FAX 0884-49-3899 e-mail s_suzue@mail.tais.ac.jp

「四国の右下」若者創生協議会 令和2年度 県南地域づくりキャンパス事業

大正大学・富岡西高校 リモート交流会



地域創生を止めない！



毎年、ワークショップをするなど絆を深めていた大正大学学生と富岡西高校生。コロナ禍にあっても画面を通じて、各テーマについて意見を交わすことができました。そのダイジェストをご覧ください。

第1回 (10/2) 大学生が自身の研究テーマを伝える



野井 希
防災教育（消防車の魅力・企業との連携）
地域ごとに消防車両が異なる理由や消防車のデザインで消防士が分かる仕組みが面白い。また、消防士を目指す少くアパレルデザインが企業との連携について考えたい。

大西 竜司
災害復旧を促進したまちづくり
復興事業計画とは関係なく防災に対する意識を事前に醸成しておくことで、まだ全体的にあまり取り入れられていないので、防災と復興を同時に進める必要を感じています。

福留 裕介
グループアソビ（ゆこうの付録）
地域の産業資源を活用することで関係人口を創出できないか考えている。ゆこうは関係人口を創出するのに、ゆこうからゆこうで関係人口を増やせるように考えています。

山田 裕希
まちづくり
まちづくりは一人で行くのではなく、家族や安心できる人の近くで生活したい。

松立 幸生
まちづくり
まちづくりは一人で行くのではなく、家族や安心できる人の近くで生活したい。

松立 幸生
まちづくり
まちづくりは一人で行くのではなく、家族や安心できる人の近くで生活したい。

松立 幸生
まちづくり
まちづくりは一人で行くのではなく、家族や安心できる人の近くで生活したい。

松立 幸生
まちづくり
まちづくりは一人で行くのではなく、家族や安心できる人の近くで生活したい。



地域創生・学際研究に向けた課題(進捗状況)
地域と協働する
学際研究の推進
地域創生の推進

自己紹介
名前、年齢、性別、出身地、所属、研究テーマ、自己紹介、自己紹介、自己紹介

津波災害に対する防災の限界から考える復興事前準備の重要性

山下 裕香
若者が求める地域コミュニティ
若者が求める地域コミュニティは、自然環境、学校とは違う居心地の良い場所です。若者が住みたいと思えるような環境づくりをしたいと思います。

若者のコミュニティ
若者のコミュニティは他の地域にどのようなものがありますか？

若者のコミュニティ
若者のコミュニティは他の地域にどのようなものがありますか？

若者のコミュニティ
若者のコミュニティは他の地域にどのようなものがありますか？

若者のコミュニティ
若者のコミュニティは他の地域にどのようなものがありますか？

第2回 (10/29) テマごとにグループワーク



防災チーム
防災とデザインの関係って？
子どもたちに消防車などのデザインに興味をもってもらうことで防災を周知する効果がある！
特に関心があると思う防災のデザインはありますか？
大学1年の実習地が宮城県南三陸町という津波の被害を受けた地域ということもあり、津波などの水災害に特に関心を入れています！

食農チーム
ゆこうって知ってる？
あまり知らない。
希少性があり、生産量はすだちの100分の1なんだよ。山前地しか取れないという特産性もあるんだけど知名度が低いことと栽培が難しいことが課題だね。
知ってらうためにSNS等で発信していく必要があるね！

関係人口チーム
市内に進学した時に阿南へ帰ってきたいと思う？
思う！家族や安心できる人の近くで生活したい。
高校生でSUPをしている人はいる？
はい、います。高校生からすると高橋… SUPに乗るまでの手続きが面倒で初めてする人にはハードルが高かった。2000円くらいだったら、映画に行く感覚で行ける！

関係人口チーム
市内に進学した時に阿南へ帰ってきたいと思う？
思う！家族や安心できる人の近くで生活したい。

関係人口チーム
市内に進学した時に阿南へ帰ってきたいと思う？
思う！家族や安心できる人の近くで生活したい。

関係人口チーム
市内に進学した時に阿南へ帰ってきたいと思う？
思う！家族や安心できる人の近くで生活したい。

関係人口チーム
市内に進学した時に阿南へ帰ってきたいと思う？
思う！家族や安心できる人の近くで生活したい。

関係人口チーム
市内に進学した時に阿南へ帰ってきたいと思う？
思う！家族や安心できる人の近くで生活したい。

大学生のテーマから「防災」「食農」「関係人口」「まちづくり・若者コミュニティ」の4グループに分かれて意見交換を行った。

※（大）は大学生の発言、（高）は高校生の発言

防災チーム
防災とデザインの関係って？
子どもたちに消防車などのデザインに興味をもってもらうことで防災を周知する効果がある！
特に関心があると思う防災のデザインはありますか？
大学1年の実習地が宮城県南三陸町という津波の被害を受けた地域ということもあり、津波などの水災害に特に関心を入れています！

食農チーム
ゆこうって知ってる？
あまり知らない。
希少性があり、生産量はすだちの100分の1なんだよ。山前地しか取れないという特産性もあるんだけど知名度が低いことと栽培が難しいことが課題だね。
知ってらうためにSNS等で発信していく必要があるね！

関係人口チーム
市内に進学した時に阿南へ帰ってきたいと思う？
思う！家族や安心できる人の近くで生活したい。
高校生でSUPをしている人はいる？
はい、います。高校生からすると高橋… SUPに乗るまでの手続きが面倒で初めてする人にはハードルが高かった。2000円くらいだったら、映画に行く感覚で行ける！

まちづくり・若者コミュニティチーム
阿南市は個々の分野が活躍している連携ができていないイメージがあるんだけど、横のつながりを生かすためにどのようなイベントや居場所があるといいかな？
運動会や様々な年代の人が楽しめるイベントがあればいいな～！学生同士でゆっくり話せる場所もあって嬉しい。趣味や人口規模に合わせたイベントを企画したい！コロナ禍での地域創生について考えていきたい！

まちづくり・若者コミュニティチーム
阿南市は個々の分野が活躍している連携ができていないイメージがあるんだけど、横のつながりを生かすためにどのようなイベントや居場所があるといいかな？
運動会や様々な年代の人が楽しめるイベントがあればいいな～！学生同士でゆっくり話せる場所もあって嬉しい。趣味や人口規模に合わせたイベントを企画したい！コロナ禍での地域創生について考えていきたい！

まちづくり・若者コミュニティチーム
阿南市は個々の分野が活躍している連携ができていないイメージがあるんだけど、横のつながりを生かすためにどのようなイベントや居場所があるといいかな？
運動会や様々な年代の人が楽しめるイベントがあればいいな～！学生同士でゆっくり話せる場所もあって嬉しい。趣味や人口規模に合わせたイベントを企画したい！コロナ禍での地域創生について考えていきたい！

まちづくり・若者コミュニティチーム
阿南市は個々の分野が活躍している連携ができていないイメージがあるんだけど、横のつながりを生かすためにどのようなイベントや居場所があるといいかな？
運動会や様々な年代の人が楽しめるイベントがあればいいな～！学生同士でゆっくり話せる場所もあって嬉しい。趣味や人口規模に合わせたイベントを企画したい！コロナ禍での地域創生について考えていきたい！

まちづくり・若者コミュニティチーム
阿南市は個々の分野が活躍している連携ができていないイメージがあるんだけど、横のつながりを生かすためにどのようなイベントや居場所があるといいかな？
運動会や様々な年代の人が楽しめるイベントがあればいいな～！学生同士でゆっくり話せる場所もあって嬉しい。趣味や人口規模に合わせたイベントを企画したい！コロナ禍での地域創生について考えていきたい！

まちづくり・若者コミュニティチーム
阿南市は個々の分野が活躍している連携ができていないイメージがあるんだけど、横のつながりを生かすためにどのようなイベントや居場所があるといいかな？
運動会や様々な年代の人が楽しめるイベントがあればいいな～！学生同士でゆっくり話せる場所もあって嬉しい。趣味や人口規模に合わせたイベントを企画したい！コロナ禍での地域創生について考えていきたい！

まちづくり・若者コミュニティチーム
阿南市は個々の分野が活躍している連携ができていないイメージがあるんだけど、横のつながりを生かすためにどのようなイベントや居場所があるといいかな？
運動会や様々な年代の人が楽しめるイベントがあればいいな～！学生同士でゆっくり話せる場所もあって嬉しい。趣味や人口規模に合わせたイベントを企画したい！コロナ禍での地域創生について考えていきたい！

6. まとめ

▷地方創生から5年。

2020年はこれまでの地方創生5年間の施策検証を行い、地域に合致した政策をさらに推進させるべく、日本全国の多くの自治体が「第2期地方版総合戦略」のスタートを切った年となりました。

※阿南市では第2期の計画期間の大半が「阿南市総合計画 2021▶2028」と重なることから、総合計画との整合を図るため、「第2期阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「第2期総合戦略」という)は2020年度中に策定し、第1期の計画期間を延長することで切れ目のない計画推進を行いました。

その阿南市「第2期総合戦略」の視点2『人口減少の克服「ひと」』では、社会移動(転入・転出)の均衡が地域の基本方針であることに加え、地域と多様に関わる「関係人口」の創出・拡大を図ることが明示されています。

▷「関係人口」の政策的な位置付けについて。

2020年の新型コロナウイルスの影響によって大きく変化した社会状況の中でも、特に影響を受けた一つが「関係人口」であったと言えます。リモートワークの推進により都心部住民の地方移住の増加傾向がみられ、加えてワーケーションといった新しい働き方の啓発も起きました。これらの社会状況は、東京一極集中の是正を大きく後押しするものとなっています。その中において、政府が掲げた「関係人口」という概念は、まさに今後の地方自治体にとって大きな牽引となると考えられる訳です。

このような背景の中で、阿南市が「第2期総合戦略」で掲げた「関係人口」の創出・拡大は、阿南市の未来を見つめた方向性を固めるために、まさに今が新たな転機であると言えるのではないのでしょうか。「関係人口」の創出・拡大は一括りで実施すべきものではないことが、これまでの大正大学の調査から明らかになってきています。今後は、各地域がそれぞれの資源を生かし、関係人口の創出か拡大か、さらには「深化」か、個別の施策をしっかりと積み上げる必要性が高まっています。

▷調査研究のスタート。

こうした背景を踏まえて、今回から3年間の予定でスタートした「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」は、中長期の視点をもって土台を固めることを目的に行いました。初年度は、阿南市移住交流支援センターがこれまでの相談記録をきちんと保存していたことから、そのデータを整理し、数値的なエビデンスに基づいた阿南市の傾向を捉えることができました。さらに、SUPタウンプロジェクトに関わる県外の関係

人口を対象に実施したアンケート結果からは、「狭く深く」参加・交流型の傾向が如実に示され、今後の阿南市型「関係人口」の深化モデルを描く可能性が見出されました。また、移住者や支援団体へのヒアリングでは、数値的な阿南市の傾向をさらに後押しするような意見、コメントが聞かれ、阿南市の地域資源の優位性を浮き彫りにすることとなりました。

▷今年度の調査結果とその共有について。

今回は、新型コロナウイルスの影響で現地での調査が限定的だったことから、以上の調査結果がまだ不十分であることは否めません。しかしながら、多方面の視点で行った初期調査からある一定の方向性が見いだせたことにより、次年度以降にどこに重点を置くべきかも見えてきたと考えられます。そして今後の調査で肝要なのは地域住民の方々や関係者の生活の場を通じたリアルな体感から出る意見であり、それらの合意であります。

その先駆けとして、今年度の調査結果を報告しつつ、意見交換する場としての研修会を実施し、阿南市関係者に加え周辺自治体もご参加いただき、現在の地域課題を共有することができました。さらに、「四国の右下」として自治体間で連携しながら各地域の特性を生かし補い合うために何が必要か、建設的な意見交換もされました。その中で印象的であったことは、阿南市が県南のハブ的な役割を果たすことで今後の関係人口モデルの構築と検証ができる可能性が語られたことです。誰もが、中長期的なミライ視点で連携しながら土台固めをすることを求め始めていることの表れと感じました。

▷今年度の調査結果からみえてきた次年度以降の重点について、

ポイントは2つ挙げられます。

1つ目はデータ収集と構築です。先に挙げた調査や過去の聞き取りデータ整理から、かなり有益な情報が得られました。一方で、政策的な方向性と合致したエビデンスを得るためには、現状よりさらにもう一段精度の高いデータ収集と集積が必要となります。これは一見難しそうに思われますが、阿南市が過去に不統一であれデータを積み重ねてきたことにより、これを改良するだけで一定の収集と集積が可能であることが見えてきています。そこで、次年度は政策的な方向性と合致したエビデンスを得るためのデータ収集と集積手法の導入を提案していきたいと考えています。まずはデモ版で現場の人たちの意見を加えながら試行錯誤して構築していくことが目標です。

2つ目のポイントは、多様な人材の合意形成の「場」づくりです。現在、政府が掲げる地方創生にも「多様な地域主体とともに合意形成」が必要であることが謳われています。このベースとなるのが、まずは各主体による活動にあり、次いでそれらが横に連携を繋げることにあります。例えば、商工会議所による商店街やまちづくりの課題を学び

あう「商人塾」や、移住者とともに集落や農地を守ろうとする地域団体の取組、阿南の豊かな自然を生かして交流人口の創出を目指す観光プロジェクトなど、阿南市では多様な活動が見られます。今後は、こうした各団体の活動エネルギーを「横ぐし」として、建設的かつ継続的につなげることが重要であり、その基盤が既にできている阿南市で、どのような横ぐしの「場」の創出が効果的なのか検証していきたいと思えます。

▷「高校生ミライ会議」について。

今年はコロナ禍でリアルな場としての会議が開催できませんでしたが、「高校生ミライ新聞」の取材を通じて多くのリアルな声を聞くことができました。

かつてのミライ会議出席者からは、「普段会わない他校の生徒や企業経営者と話できて楽しかった」「高校生の時に地域でもっと活動がしたかった」「あの時の夢は続いています」「経験を積んで阿南に帰って来たい」「充実した生活を楽しんでいる自分を見て地元で働く良さを感じてほしい」など、当時の想いと「今」の自分を語ってくれました。

現役高校生からは、「自分たちの活動を応援してもらって嬉しかった」「地域（まち）は自分の素の状態を受け入れてくれる場所だった」「もっと地域と関わりたい」など、勉強や部活以外で自分の魅力を再発見できた喜びを語ってくれました。

2020年度から本格的にスタートした「総合的な探求の時間」は、高校生の背中を大きく押ししました。地元を知ることで地元への愛着が生まれ、将来のふるさと回帰に繋がります。これからは、そんな高校生と地域や企業を結びつける中間的支援組織の必要性がより高まってくると思われます。今回のミライ新聞で高校生の活躍が広く周知され、新たな出会いや連携が生まれてくることを期待しつつ、来年は高校生の活発な意見が飛び交う、リアルな「高校生ミライ会議」が開催できることを願っています。

▷大正大学地域創生学部の実習について

阿南での現地実習を楽しみにしていた学生にとって試練の年となりましたが、「地方創生を止めない」を合言葉にリモート実習に取り組みました。地域で学び、行動する「関係人口」のシンボルとして、引き続き阿南市の地域創生に積極的に関わってまいります。

▷終わりに

コロナ禍の中、あらゆる面で制約を余儀無くされましたが、一定の成果を収めることができました。本年度の調査研究事業にご指導ご協力いただいた全ての関係者の皆様に感謝を申し上げ、本報告書のまとめとします。

2020（令和2）年度 地方創生・地域の活性化に関する研究 成果報告書

発行：2021（令和3）年3月

制作：大正大学